

備える。

準備。子備。整備。裝備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナシク

no. **30**

かわさき
防災広報紙

昭和62年1月31日発行
 発行●川崎市
 編集●土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL.(044)200-2111内線2841



聞いて、
ほっと

正確な情報
それを

〈大地震〉ある日、突然やってきたら…

電気や電話は不通となり、どこでどの程度の被害が出ていのか全くわからず、会社や学校にいてい家族の安否が、
 「まず、気がかりです。」
 家の中では、家具類が倒れ、ガラス器具が散乱し、
 「途方に暮れてしまいます。」

外では、けたたましいサイレンの音が聞こえます。煙が遠くに見え、相当の被害のようですが、

「いったいどうなっているのでしょうか？」

〈そのとき〉

震源や各地の震度がわかれば、家族の安否を知る手がかりになります。また、市域や町内の情報が自主防災組織から知らされたなら、子供たちの様子も想像でき、初期消火や救出救護の手伝いをすることもできます。

しました

〈正確な情報〉を！

災害時には、まず正確な情報を得るよう心がけましょう。また、ラジオは常に使用できるようにしておきましょう。4月からは、市の防災行政無線が運用を開始します。

大地震が起こったら、信頼できる情報に基づいて行動しましょう。誤った情報は、混乱を拡大させ、思わぬ事故につながりかねません。

1987 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土
 2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

★ 毎月15日は川崎市民地震防災デーです ★

迅速に 正確に

情報も 備える。

広報の手段

1 テレビ・ラジオ

川崎市では、昨年6月に次の四社と災害時における放送協定を締結しました。市からの情報は、これらのテレビ・ラジオで、収集してください。

- アール・エフ・ラジオ日本
- 日本放送協会横浜放送局
- 横浜エフエム
- テレビ神奈川

2 広報車・ヘリコプター

毎月15日に、市民地震防災デーの広報をしています。が、災害時も、市民の皆様に必要な情報を提供するため、広報車・ヘリコプターの使用を計画しています。道路事情にもよりますが、地域に密着した情報を提供します。

3 防災行政無線

今年の4月から運用を開始しますが、そのうち同報無線は、次のように配置されます。

- 屋外受信機 70箇所
- 避難場所・駅前・急傾斜地・海岸
- 戸別(屋内)受信機 1850箇所
- 小学校・中学校・高校・社会教育施設・幼稚園・保育園・社会福祉施設・住民組織(自主防災組織等)

なお、防災行政無線については、次号の『備える』で特集を予定しています。

市からの広報の内容

1 東海地震の発生が予知されたとき

- 判定会招集
- 警戒宣言発令
- 川崎市災害対策本部設置
- 家庭での心得
- 交通機関の運行状況
- 電気・ガス・水道の供給体制と注意事項

2 大地震が発生したとき

- 地震情報・津波情報
- 川崎市災害対策本部設置
- 混乱防止の呼びかけ
- 火災地区住民への避難の呼びかけ
- 道路状況と交通規制
- 被害状況と対応措置

3 災害復旧時

- 飲料水・食糧・生活必需品の供給状況
- 避難場所等の開設状況
- 負傷者等の安否情報
- ライフ・ラインの復旧状況
- 学校等の再開状況
- 融資・相談所の開設状況

自主防災組織等の情報活動

1 情報の収集

- 自主防災組織の情報班の責任者を決める
- 情報の伝達ルートを確認する
- 輻輳する情報を取捨選択する
- 自主防災組織の責任者へ連絡する
- 区役所・消防署との連絡

2 情報の伝達

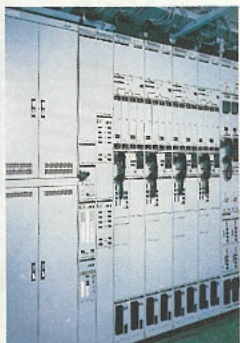
- 住民への情報の提供
- 住民への指示事項の伝達
- 自主防災組織の各班への活動指示
- (初期消火・避難誘導・救出救護・給食給水各班へ活動の時間・場所等を指示する)

地震の心得

過去の例から大地震で恐ろしいのは、二次災害といわれる火災です。地震を感じたらすばやく火の始末をしましょう。万一出火した場合には、初期のうちに火を消すことが大切です。大声で隣近所に声をかけあい、協力して消火につとめましょう。



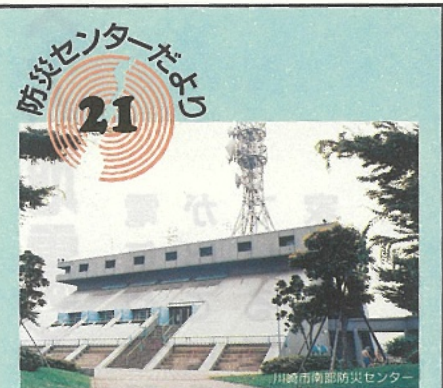
西生田無線中継所



南部防災センター無線機室



避難訓練(幸区)



防災センターでは、各種展示物、展示コーナーの設置をはじめ、災害用医薬品、カンパン、飲料水などを備蓄しています。地域町内会、学校、職場の「防災学習の場」として、なお一層のご利用をお願いします。なお、61年1月～12月に来館された見学者は約6000名にのぼり、地震体験装置で関東大地震を体験したり、消火マスターでの消火訓練、映画「地震とわたしたち」を見て、川崎市のおかれている現状や災害対策についての学習を深めています。

●ご利用、ご見学のお問い合わせは
川崎市南部防災センター
川崎市川崎区小田7-3-1
TEL355-2175
交通=国鉄川崎駅中央口14・21出入口
1番のりば 臨港バス富士電機行き小田小学校前下車徒歩6分

※日本海中部地震 昭和58年5月26日午後0時0分18秒発生 震源：能代沖10キロ 深さ：10キロ マグニチュード7.7 死者：14人 負傷者：18人

※日本海中部地震 昭和58年5月26日午後0時0分18秒発生 震源：能代沖10キロ 深さ：10キロ マグニチュード7.7 死者：14人 負傷者：18人

※日本海中部地震 昭和58年5月26日午後0時0分18秒発生 震源：能代沖10キロ 深さ：10キロ マグニチュード7.7 死者：14人 負傷者：18人

※日本海中部地震 昭和58年5月26日午後0時0分18秒発生 震源：能代沖10キロ 深さ：10キロ マグニチュード7.7 死者：14人 負傷者：18人

※日本海中部地震 昭和58年5月26日午後0時0分18秒発生 震源：能代沖10キロ 深さ：10キロ マグニチュード7.7 死者：14人 負傷者：18人

ラジオでは何人も死んだり、ゆくえ不明だと放送していました。

五月二十六日木曜日の昼十二時ごろだった。ちょうどグラウンドで、ソフトボールをやっていました。一人の友達「ゆれでらよ。」と言いましたが、トラックが、二、三台けむりたてて走っていました。私の口からなせか、「地震。地震だ。」という言葉が出ました。すると先生が突然、「しゃがめ。しゃがめ。しゃがめ。」と言った。私達女生徒全員がしゃがんだ。ところが男生徒は、女生徒からかたまりはなれたところでソフトをやっていた。女生徒ほとんどみんな男子に向かっ、「しゃがめ。しゃがめ。しゃがめ。」となんどもくりかえしてさげんだ。やっと男子も全員しゃがんだ。少しの間地震がおさまり、全校生徒がグラウンドに集まった。なかには低学年の生徒は泣いている人もたくさん見られた。また地震がくると思うとこわくてまらなくなった。その時、またぐらぐらとゆれた。しゃがんで見ていると、グラウンドが海の波のようにゆれた。そのあと急いで教室に入り、給食のパンをポケットにおしこみ、おかずだけを大急ぎで食べた。外スックで中に入ったので、中スックにかえに行く時先生が、「津波がきたから、外にでろ。」と言った。急いで外へへけた。全校生徒がまたグラウンドに集まった。幼稚園の裏の高いだんだん畑に避難した。その時、父母や、姉や兄、そして、祖父祖母をして愛犬のことが思い出されて心配になってきた。はじめは泣かなかった私も友達のおばあちゃんに家へ帰っていると聞いて、心配になり心細くなって、その友達といっしょになって泣きました。まわりの友達もみんな泣きました。新町が全滅つと聞いて、山の上から海の方を見ました。はじめ大波が来て、五百メートルぐらい波が引いて、そのあと、ぐらぐら津波になって、陸地におし寄せてくる。遠くはなれた山の上から見てもそんなのだから、海岸のその場にいた人は、どれほどおそろしかったことだろうと思えます。それからなん度も、避難場所を変えました。二組の松本康平くんの持ってきたラジオを聞きました。ラジオでは何人も死んだり、ゆくえ不明だと放送していました。一度波が引いたので、置いてきたつりきおを取りに行って、二度目の津波にさらわれてしまった人もいるそうです。ほんとうにむごいことです。つりきおだなんて、お金を出せば買えるのに、その時すぐにはよかったのに、つくづく思われました。(以下略)

日本海中部地震「先生、地震だ！」から
おもわず泣いてしまった地震
小泊村立小泊小学校五年(当時) 藤田洋美さん

